

広がる交流の入口

びわこ文化公園が、周辺住民、大学生、会社員の生活の場・交流の場となることを目指して、豊かな空間としていくために、関係人口を増やす(=交流を広げる)プロセスを提案します。



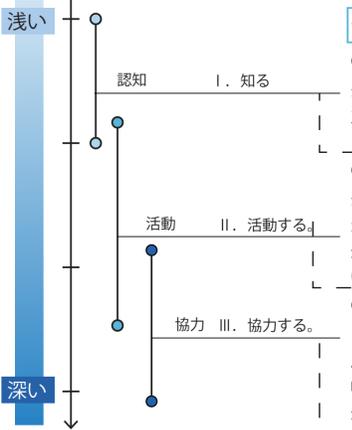
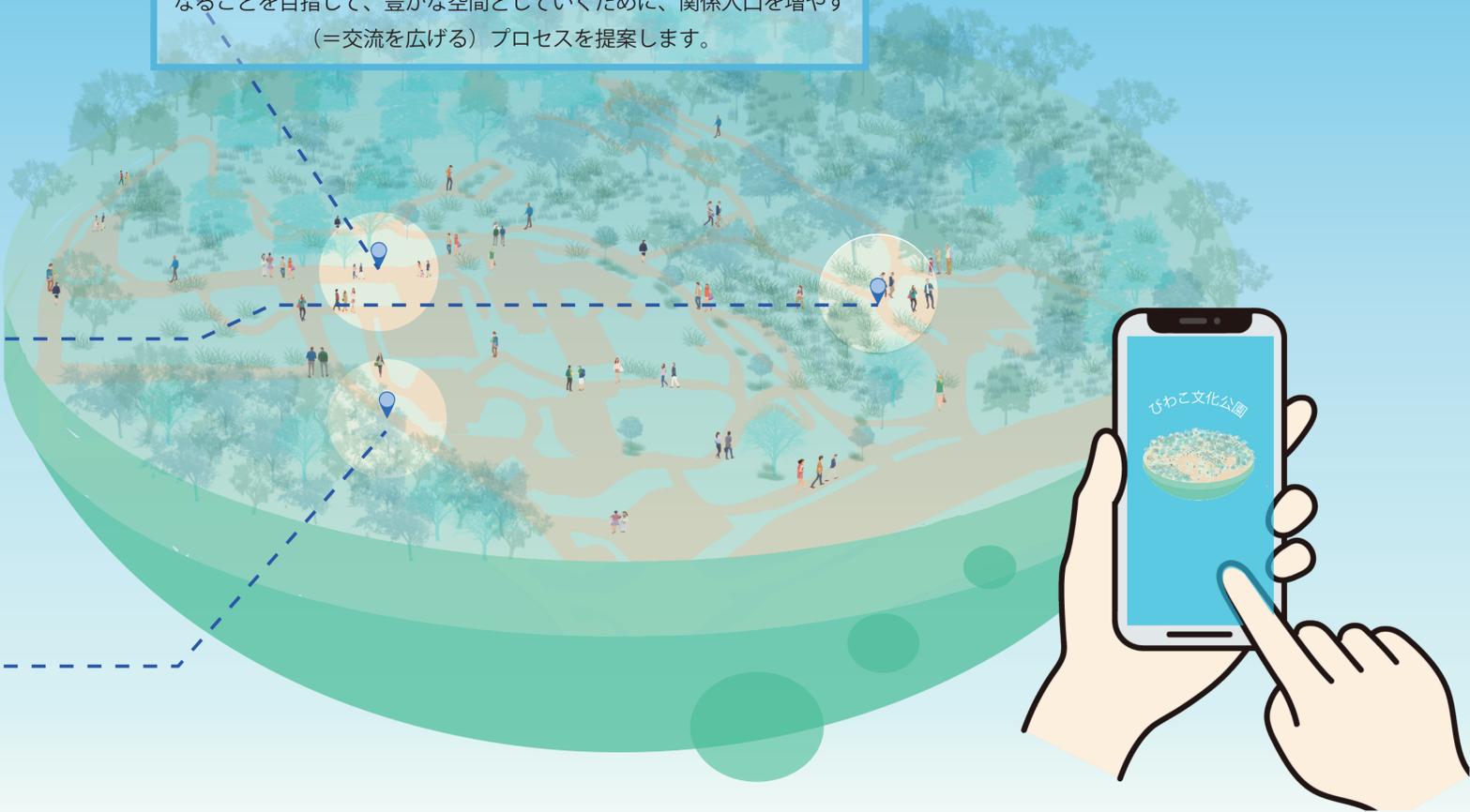
出張・図書館開催中



マルシェやっています!

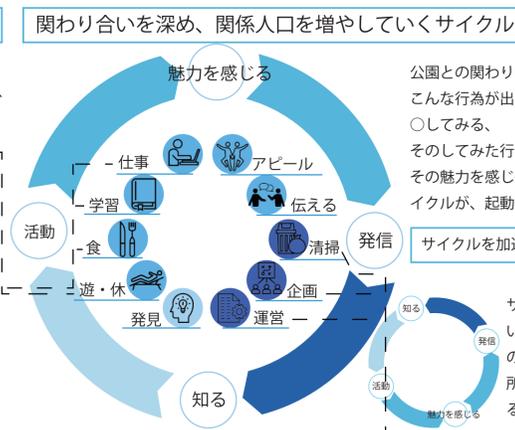


一緒に、清掃しませんか?



公園との関わり合い方には度合いがある

○認知しているだけで、利用したことが、無い人の層
公園の存在は、名前だけ聞いたことがあるが、その行き方がわからず、又は、きっかけがなく、行くに至っていない人。
これらの人は、生活の場になるに至っていない。
○活動したことがあるが、愛着は、湧いていない。
公園には、訪れた事はあるが、行く頻度が、年に1回とか、数回とかにとどまっている人、公園内で、何か活動をしたことがある人。
生活の場所になっていないが、なる可能性がある層の人達を差している。
○日々公園を利用し、生活の場所になっている人。
日々の生活で、ジョギングコースになっている、主要施設をよく利用する、ペットの散歩コースになっているなど、公園からの協力の呼びかけにも、柔軟に応じて、積極的に、公園に関わろうとする人。
生活の場所になっている層の人達を差している。



公園との関わりが浅い、知る行為から、こんな行為が出来るのか、ということから、○してみ、そのしてみた行為から、魅力を感じる。その魅力を感じ経験から、情報を発信するサイクルが、起動していく。

サイクルを加速させる10のアクティビティ

サイクルを、積極的に回していくためには、右に挙げた10の行為が、活発に行われる場所・環境が必要であると考えられる。

コンセプト：so-zo が湧き出す公園

so-zo：想像力・創造力の言葉遊び

想像：Imagination
公園内の場の雰囲気や、その場での利用方法、シーンを思い浮かび、豊かな感情が織り交ざる公園。

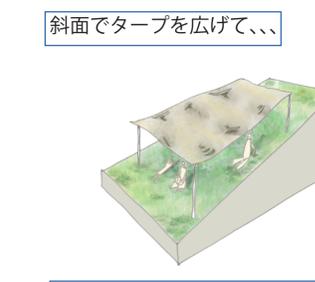
創造：Creation
創造力を湧きださせてくれる公園は、誰かに感化されて、誰かの発信する活動に影響を受けて、積極的に新たなものを作出せることができる環境を備えた公園。

so-zoの質的向上：レンタル公園

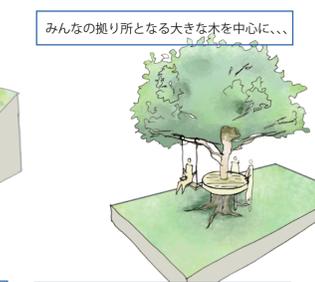
レンタル公園をする意義
現状の公園内では、行動の規制がかかており、様々なルールによって、自由な行動が許容されていないのが現状である。
そこで、レンタルされた範囲は、ルールの緩和を行い、ルールの範囲で自由な行動が出来るようにする。それによって、so-zoの質が高まり、多様なアクティビティが生まれる。更には、それらによって、関係人口増やすサイクルが循環していく。

レンタル公園の使い方モデル。

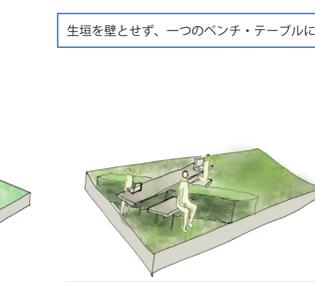
びわこ文化公園の敷地は、地形のタイプが多く、その地形をうまく使いこなす事が出来れば、道や広場だけでなく、いろんなところに、人の活動が、見えて、so-zoの質が増す。
公園内に確認できる、10の地形で、どのような行動が出来るのかを、計画してみた。



斜面でタープを広げて、、、



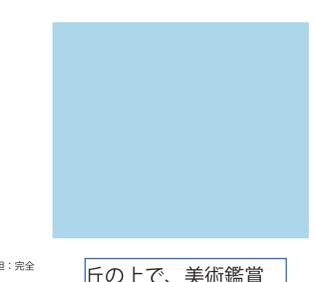
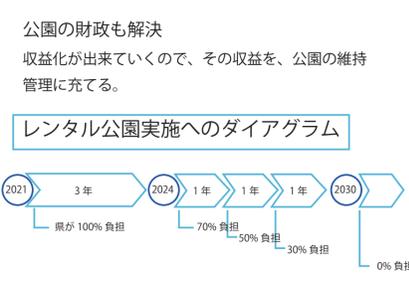
みんなの憩い所となる大きな木を中心に、、、



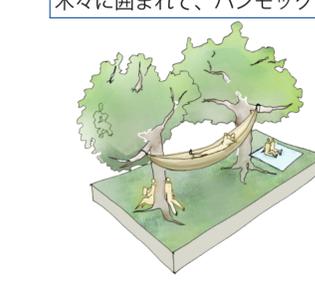
生垣を壁とせず、一つのベンチ・テーブルに、、

so-zoの質的向上：情報のプラットフォーム

意図
今のびわこ文化公園の現状では、中身が不透明であり、実際に足を運ばなければ、なにが出来るかわからない状況になっている。
そのような状況では、行きたいと思うモチベーションにもつながらない、情景が想像できない。
目的
公園内で、行われている人の活動を、リアルタイムで、情報として公開することによって、にぎやかさ・楽しさを示し、きっかけを作る。
情報では、誰もが目目なく交流できるような、場所で、それぞれの人が、楽しく、活き活きとした公園の形を提案する。



丘の上で、美術鑑賞



木々に囲まれて、ハンモック



谷間に、水をはって水浴び



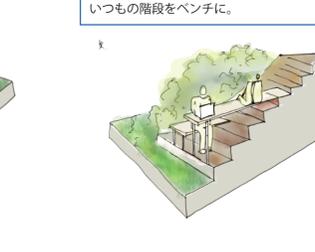
芝生広場で、涼し気に作業しよう



道端の出会い



池で、発見



いつもの階段をベンチに。

so-zoの量的向上：交通の改善

より多くの人が、びわこ文化公園にいければ、その分だけ、so-zoを生み出す機会が増える。
また、その利便性の向上から、周辺地域だけでなく、他の地域の人達も呼び込める。

ETC2.0を利用したびわこ文化公園の利用促進

右のような賢い料金システムをびわこ文化公園の利用者にも時間無制限の形で導入する。
→高速道路利用者の一つの目的地としてびわこ文化公園を利用できる
→高速道路の移動中に博物館・美術館・広場を長距離移動者の休息目的として利用できる

so-zoを支える環境の整備

公園内に、美術館・博物館・図書館、公園周辺に、大学・企業があるが、現状ではそれぞれが、混ざり合う環境は、整備されておらず、影響し合う関係性の構築は、なされていない。
創造は、感性や、知識の蓄積によって、又は、他人の活動が引き金となって、新しいものを生み出す事ができる。
公園内の施設・周辺の団体が、織り交ざり、提供し合える環境を整備することによって、公園敷地内または、周辺に、創造を支える場を提供する。
大学
びわこ文化公園内の一區画に、サテライトオフィスを計画する。

美術館・博物館・図書館

美術館・博物館・図書館は、それぞれが、施設の内側にどまり、入口を通過してからでしか、そのサービスは、始まらない。
入口に入らずとも、その存在を知ることが出来て、多くの利用者の目に留まるような形にすれば、それぞれの入口を通った利用者だけでなく、それ以外の人達にも、影響を与えることができる。
アートが公園を彩ったり、博物館の展示品が、公園利用者の好奇心をくすぐる様に展示されていたり、図書館の本棚が、外にあって気軽にほんを手に取り事が出来たりすれば、思いもよらない発見から、感性や知識が刺激されるような事がある。
上記の活動全体が、他の利用者にも影響を与え、行動の多様性を生むことに繋がり、それが、so-zoを支える土台になる。

ハイウェイオアシスの導入

高速道路上にあるSA・PAに連結されている文化施設や商業施設の呼称

トレッキングコースやウォーキングコースを作成し(右上图の青線上)、PAと公園を結ぶことで擬似的にハイウェイオアシス構築にすることは可能ではないか
道中を自動運転車両等で結ぶことにより近未来的なびわこ文化公園ハイウェイオアシスを作ることが可能ではないか
ただ、びわこ文化公園に近い2つのPAの立地面やコスト面が懸念される



学生は、公園内の、涼しい環境で学習を進めることができる。また、学習だけでなく、部活動の活動や、学生団体、サークル活動を含め、学生の活発な活動を、公園内にあふれさせます。学生の自由な発想と、情報発信能力は、新たに人に行動の可能性を及ぼし、人に賑わいを生む基点となる。

企業
公園内にサテライトキャンパスを計画する。
企業活動が、外部空間で行われれば、会社員の生産性向上や、ストレス軽減、健康向上にもつながる。
いつもと違う環境で、仕事を行う事は、新たなひらめきを生んだり、企業活動を、周辺利用者にアピール出来たりする事に繋がる。

シェアスペース

公園敷地内に、例えば、立命館がサテライトオフィスの為に一區画借りたとして、それに対する対価を、金銭にするのではなく、立命館側も、同様に琵琶湖文化公園に立命館の一區画を支払う、というような、賃料の対価として、場所を支払うみたいなどをする。
結果的に、場所をそれぞれシェアすることに繋がる。
そのようなすれば、お金を発生することなく、winwin関係で、場所の貸し借りをを行う事ができる

